

# 2015年2月 日本クリード復興支援部レポート

## 何もすることがないことが一番辛かった

本当に小さな港町 女川町 住宅総数 4411棟 被害住宅3934棟 89.2%が津波によって被害を受けた。(国土交通省被災状況調査) 町民の6000人近くが未だ仮設住宅で住まう町です。「わかめ養殖発祥の地」である女川町は豊富な解散物 ホタテ・アイナメは1年中収穫できます。

そんな女川町の住人 高橋さん

「四年経って、津波で浸水したよ畑の塩がぬけて、ようやく家庭菜園ができるようになったよ」と自身の畑の横で、我々が炊き出したラーメンをすすっていました。

その時に、ポツリと……………「何もすることがないことが一番辛かった」と……………。

3月11日 東日本大震災から4年が経ちます。女川町は、新しく駅が建築されもうすぐ完成です。街全体を土で地盤を高くして、近未来的な町を建築中です。

しかし、被災者の現状は変わらない……………。町は近未来に、自身の住まいは先の見えない仮設住宅、この心の隙間は どう埋めていけばいいのか、被災者の人達は直視しています。

私達、日本クリード復興支援部は、被災地に向日葵のような笑顔が戻るその日まで、自分たちのできる支援を続けていき たいと思っています。

日本クリード復興支援部 大関

